



2021年(令和3年)3月期 決算説明資料

2021年4月27日
鉦研工業株式会社(証券コード:6297)

- 会社概要 P.2
- 事業内容 P.3
- 2021年3月期決算の概要 P.4
- 次期2022年3月期連結業績見通し P.22

会社概要

会社名（英語表記）	鉦研工業株式会社 (KOKEN BORING MACHINE CO.,LTD.)
設立年月日	1947年10月16日
本社所在地	東京都豊島区高田2丁目17番22号
決算	3月
資本金	11億6,541万円
上場市場	JASDAQ
代表取締役社長	木山 隆二郎
従業員数	連結244名（2021年3月末／臨時雇用者を除く）
事業内容	ボーリングマシンの製造販売および工事施工
連結子会社	1社：構造工事株式会社

事業内容

1. 各種ボーリング・グラウト機器製造・販売

建設事業計画の立案から建設完成までの様々な段階でボーリング装置やグラウト機器が使用されます。地質調査や地盤改良工事、災害防止工事、トンネルの掘さく現場から、深海から南極まで、鉱研工業の製品は様々な場所と分野で活躍を続けています。

2. エンジニアリング・工事施工

ボーリングマシンのトップメーカーであることを最大限に活かし、独自の機械、独自の工法を駆使し、トンネル掘削の先進調査ボーリング、温泉・地下水掘削、直径6mの立坑レイズボーリングなどを展開しています。



ボーリングマシンの
トップメーカー

地下開発の
エンジニアリング、
施工

決算の概要 (2018中計との比較)

(単位：百万円)

	2018中計 (2018-2020)				実績 (2018-2020)				比較増減			
	2018年度		2020年度		2018年度		2020年度		2018年度		2020年度	
	連結	個別	連結	個別	連結	個別	連結	個別	連結	個別	連結	個別
売上高	7,980	7,000	8,250	7,400	7,137	6,165	7,534	6,684	△ 843	△ 835	△ 716	△ 716
営業利益	420	350	490	450	272	131	251	115	△ 148	△ 219	△ 239	△ 335
当期純利益	320	280	320	300	179	87	929	845	△ 141	△ 193	609	545
1株当たり配当金	6円		8円		8円		10円		+2円		+2円	

決算の概要（前期比較）

（単位：百万円）

	連 結			個 別		
	20/3期	21/3期	増 減	20/3期	21/3期	増 減
受注高	8,257	8,223	△34	7,375	7,405	29
売上高	7,600	7,534	△65	7,039	6,684	△354
営業利益	415	251	△163	403	115	△288
経常利益	416	167	△248	397	29	△367
当期純利益	338	929	590	322	845	523
	20/3期	21/3期	増 減	20/3期	21/3期	増 減
総資産	7,938	9,365	1,427	7,561	8,713	1,151
有利子負債	970	1,437	467	970	1,362	392
自己資本 (自己資本比率)	3,873 (48.8%)	4,747 (50.7%)	873 (1.9 p)	3,677 (48.6%)	4,451 (51.1%)	773 (2.5 p)

要約連結損益計算書

◆前期比較の連結損益計算書

売上高は減少したものの原価率改善により粗利益0.5%増加

販売在庫評価損132百万円の売上原価計上と伊勢原工場用地取得関連の不動産取得税などの

諸経費99百万円及び支払手数料84百万円を計上したが、厚木工場売却による特別利益963百万円

の計上等で当期純利益は590百万円増加の929百万円

(単位:百万円)

	20/3期	21/3期	前期比増減	
売上高	7,600	7,534	△65	△0.9%
売上原価 (原価率)	5,580 (73.4%)	5,506 (73.1%)	△74 (△0.3p)	△1.3%
売上総利益	2,019	2,028	9	0.5%
販売費管理費	1,604	1,777	172	10.8%
営業利益	415	251	△163	△39.5%
営業外損益	0	△83	△84	—
経常利益	416	167	△248	△59.7%
特別損益	△58	948	1,006	—
法人税等	18	180	162	—
非支配株主利益	1	6	5	443.6%
当期純利益	338	929	590	174.6%

2021年3月期決算（連結）のポイント（減収増益…最終利益）

売上高減少△0.9% 7,534百万円

原価率ダウン△0.3ポイント 73.1%

粗利益増加+9百万円

販管費172百万円増加

営業利益251百万円（△163百万円）

特別利益+963百万円計上(厚木工場売却益)、遊休資産の減損処理費△14百万円とこれに関わる圧縮記帳処理などの税務処理で法人税等及び法人税等調整額180百万円

当期純利益929百万円(+590百万円)

◆売上高は7,534百万円、前期比△65百万円減少

- ▶ ボーリング機器は国内での出荷売上は減少したが、海外での大型案件の出荷により増加
- ▶ 工事施工は地下水工事の完工高増、長尺コントロールボーリング工事の順調な進捗増等がありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一部のトンネル先進調査ボーリング工事のゼネコン下における休工等があり減少

◆販管費は主に試験研究費（新製品開発）、租税公課（伊勢原土地関連での不動産取得税他）給与手当（ベアと定昇）と事務用品費（リモート関連）が増加したが旅費交通費はコロナ禍での出張自粛にて減少（販管費は前期比172百万円増）

◆結果、営業利益251百万円、経常利益167百万円、当期純利益は929百万円を計上

受注状況・・・受注高は前期比△34百万円（△0.4%）の減少

◆受注高は8,223百万円で、前期比△34百万円減少

▶ボーリング機器：4,470百万円(△29百万円減少)

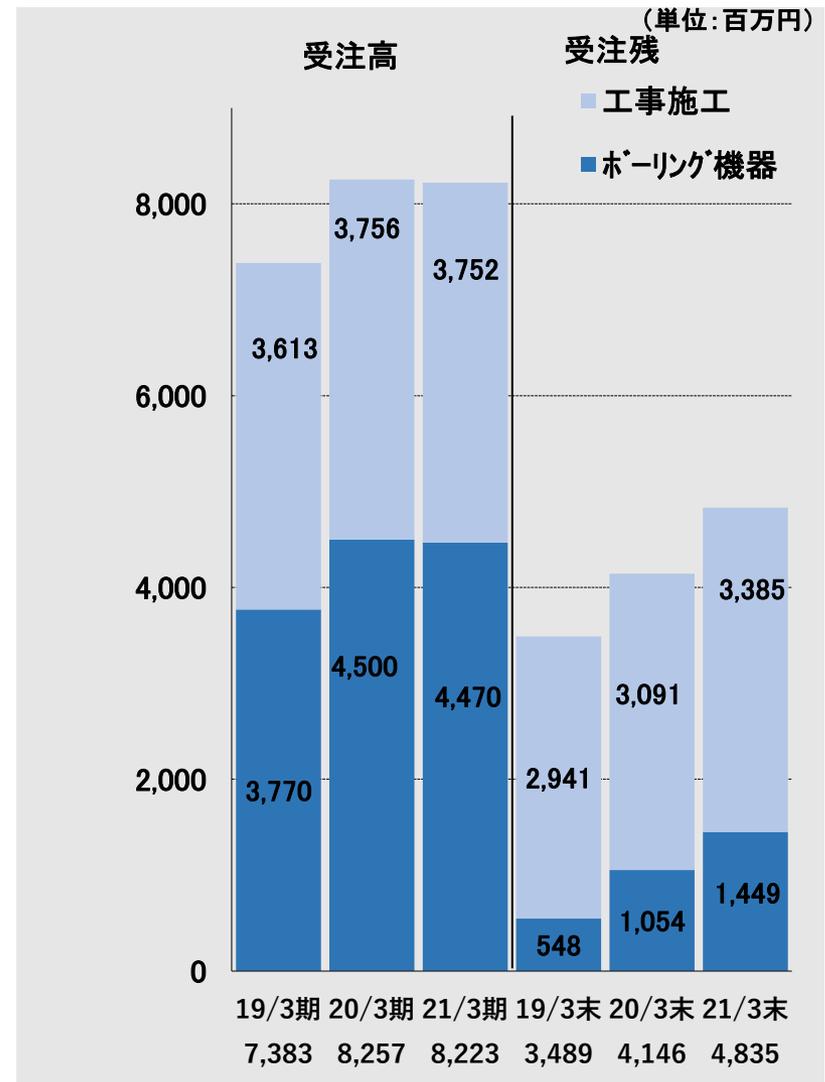
海外においては中国向けの特機(FS-120CZ)、水井戸関連の受注が獲得できたが前期と比較すると減少

▶工事施工：3,752百万円（△4百万円減少）

国内トンネル先進調査ボーリング工事が好調で増加し、海外でも大型BM工事の受注獲得があったが他の工種の受注が減少した事より減少

◆21/3末受注残は4,835百万円（+688百万円増）

▶ボーリング機器の国内受注残が大幅増加 （+394百万円増）



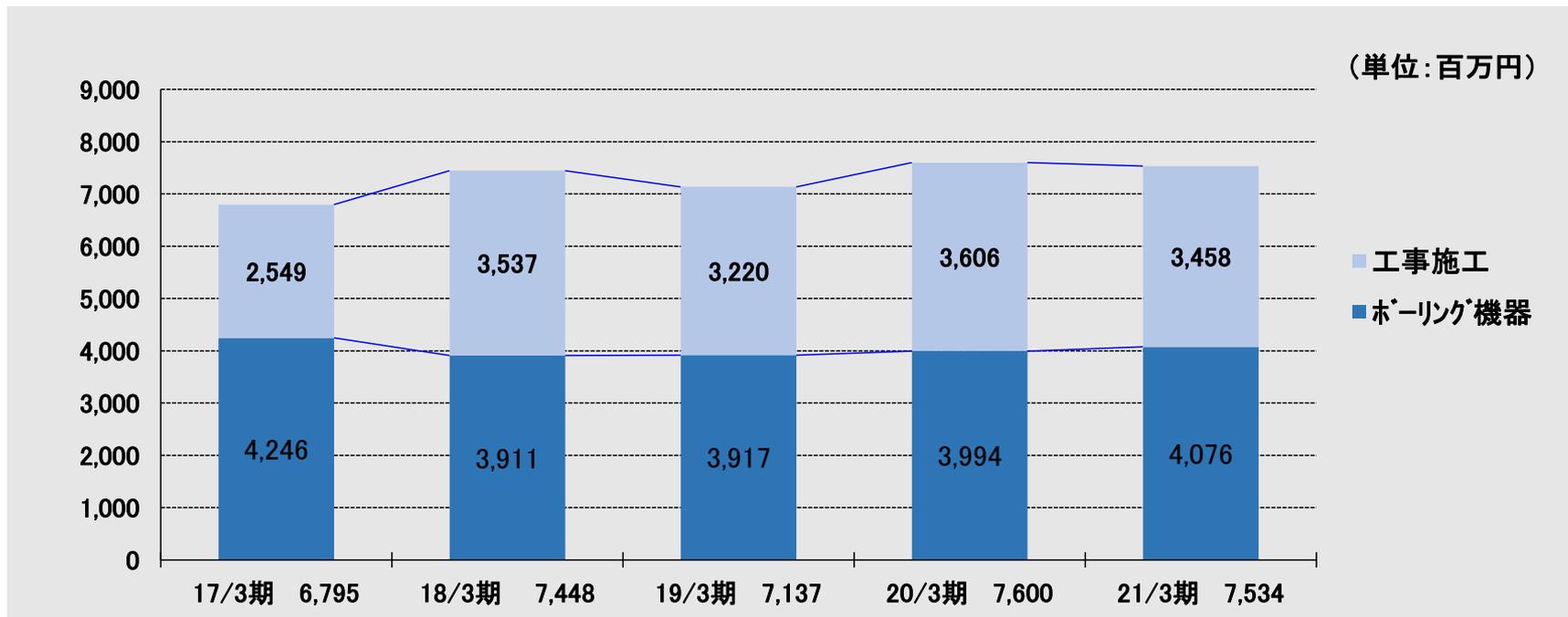
売上高・・・前期比△65百万円（△0.9%）減少

◆ボーリング機器4,076百万円、前期比82百万円増

▶国内での出荷売上は減少したものの海外での大型受注案件の出荷により増加、国内では主力製品のロータリーパーカッションドリル（RPD機シリーズ）とその関連部品の製造、前期の海外向け大型受注案件の製作が下期に集中した影響で国内向け受注機生産数量が限定されたため国内での出荷・売上にその影響を受けた。

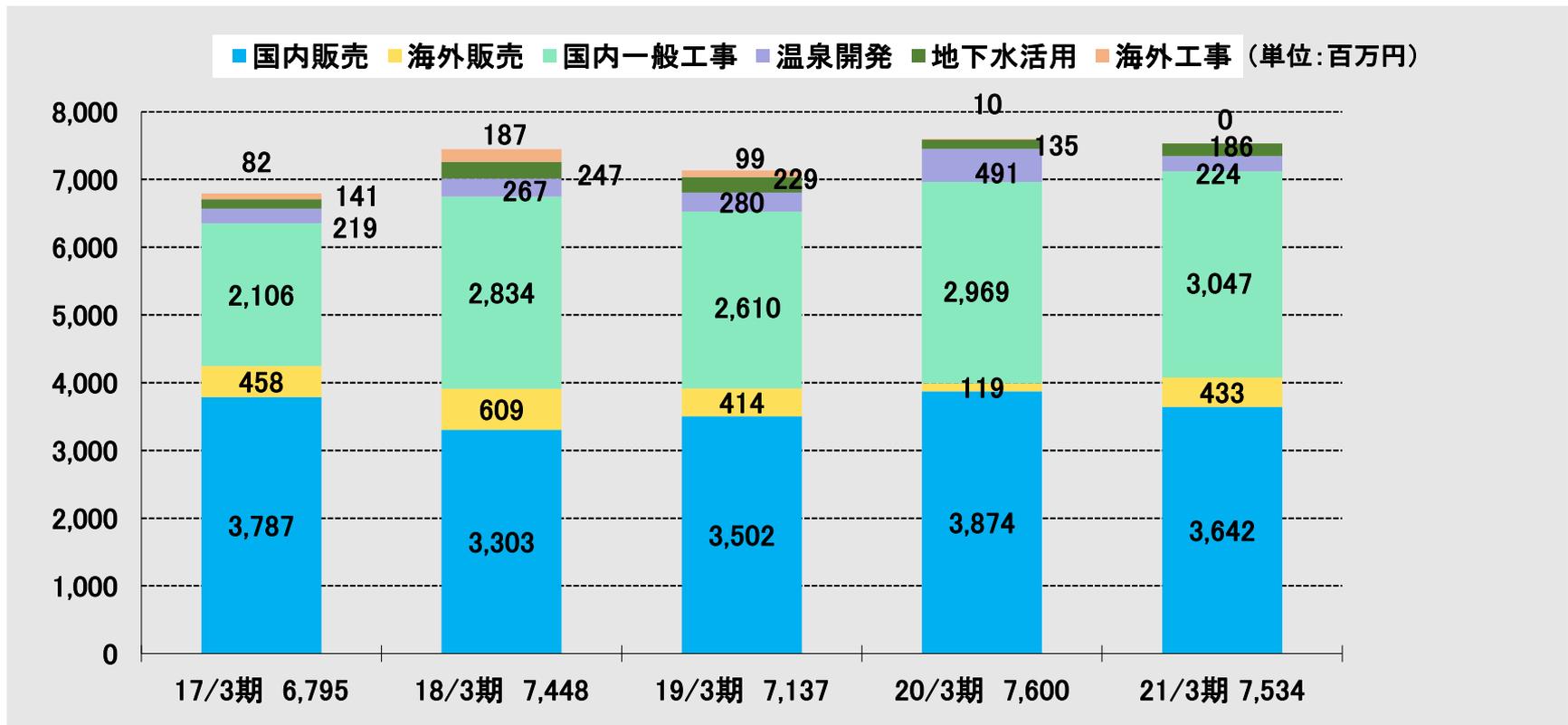
◆工事施工3,458百万円、前期比△147百万円減

▶地下水工事の完工高増、長尺コントロールボーリング工事の順調な進捗増等により完工高増があったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、一部のトンネル先進調査ボーリング工事のゼネコン下における休工と海外大型工事の着工乗り込み遅延の影響により、完工高全体では4.1%の減少となる。



売上高の内訳

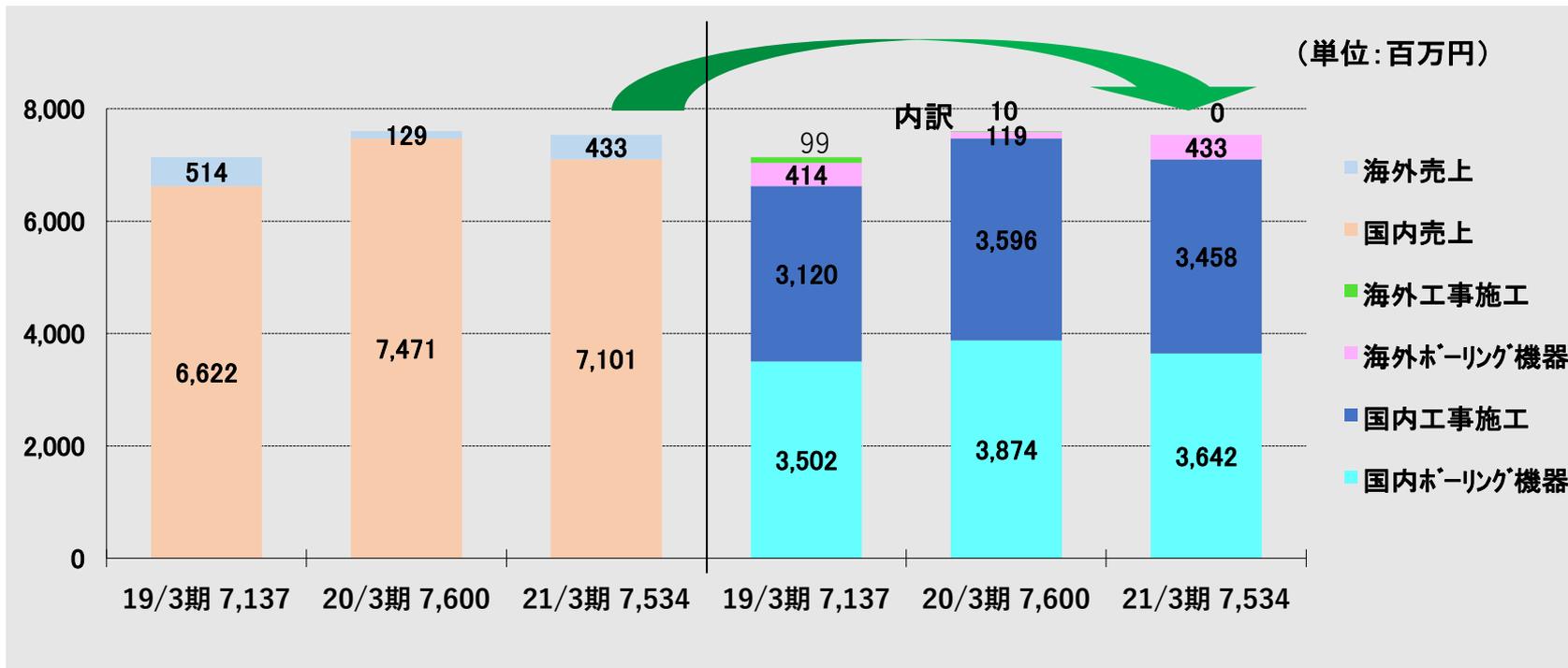
- ◆ボーリング機器合計は、前期比82百万円増加
 - 国内販売は△232百万円減少したが、海外販売が314百万円増加
- ◆工事施工合計は、前期比△147百万円減少
 - 地下水活用、国内一般工事内訳のコントロールボーリング工事、アンカー工事は増加したが、温泉開発、国内一般工事内訳のトンネル調査工事、BM工事及びびが大きく減少



海外売上高・・・前期比2.3倍増

◆海外売上は前期比303百万円増の433百万円

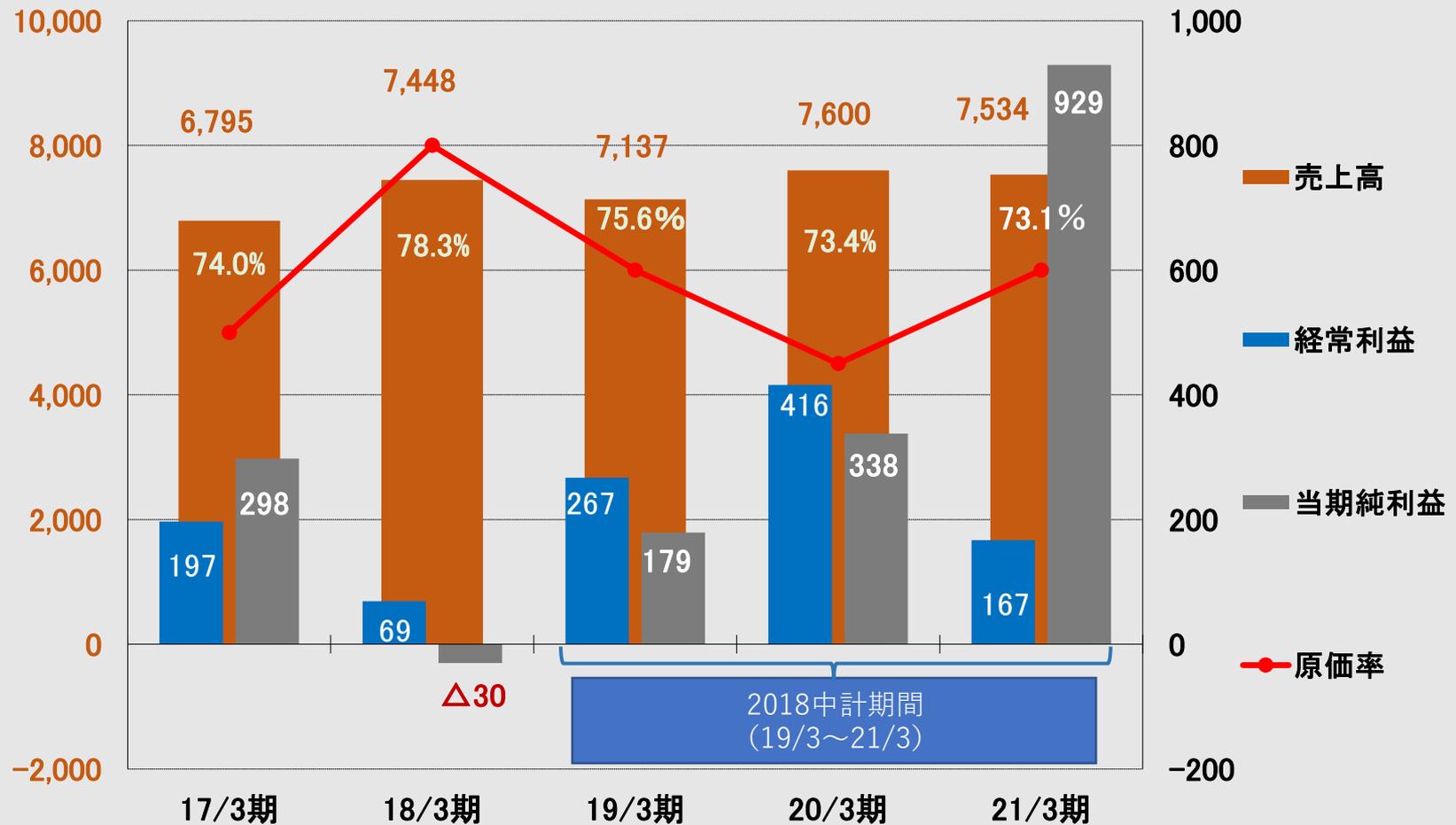
- ▶ ボーリング機器は、中国向けに人命救済機(FS-120CZ 4号機)納入と中南米ホンジュラス向け水井戸機(ODA案件)などの出荷売上が貢献し、前期比314百万円増加
- ▶ 工事施工は、インドネシアでの大型工事がコロナ影響により着工乗り込みが遅れたため、完工案件はなし。前期はキルギスでの調査工事があり、前期比△10百万円減



売上高・利益の推移

(単位:百万円)

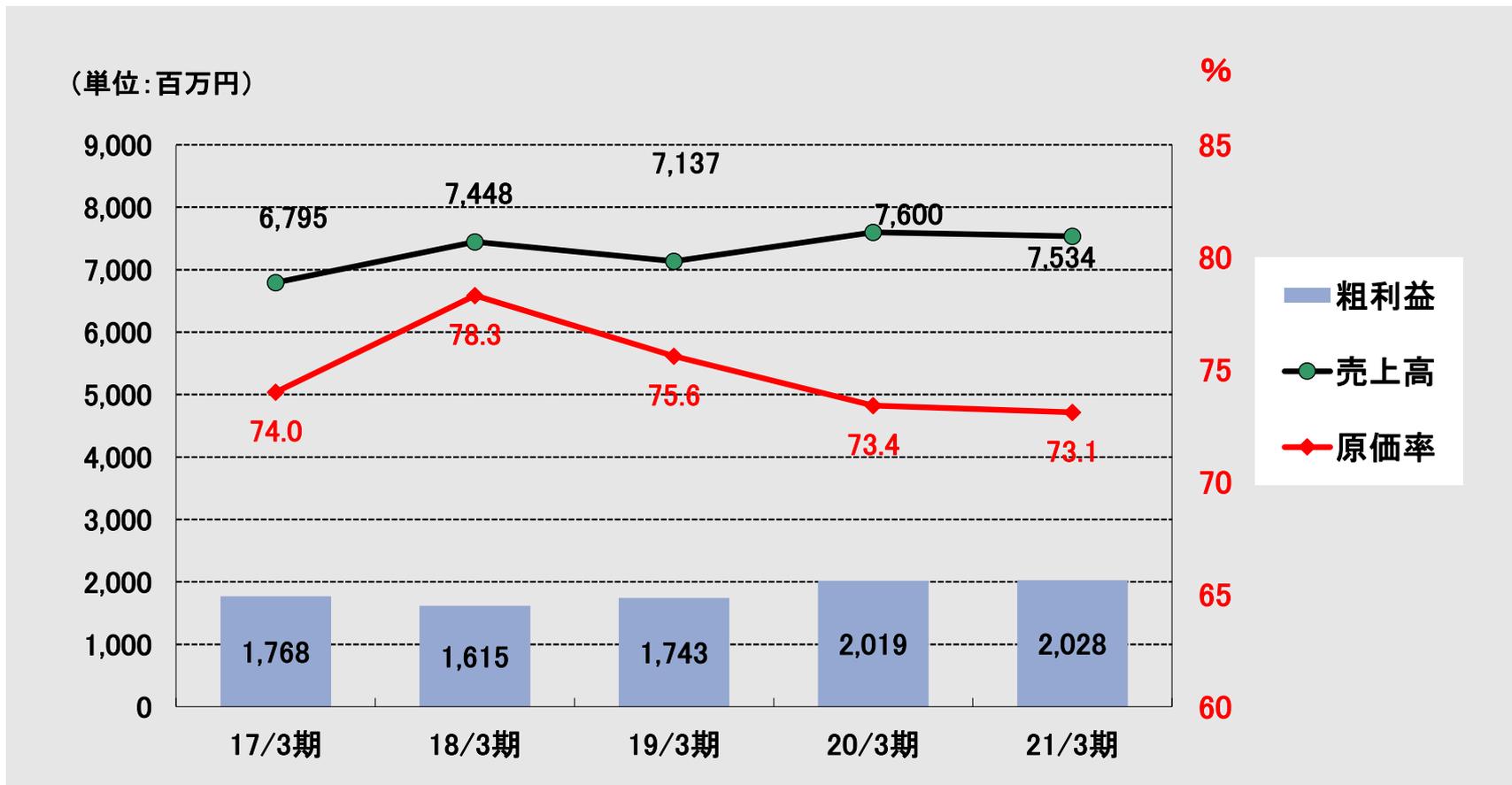
(単位:百万円)



売上高・原価率及び粗利益の推移

◆粗利益は2,028百万円で前期比+9百万円（+0.5%）増加

➤売上高は減少（△65百万円）し、原価率も△0.3ポイント減少



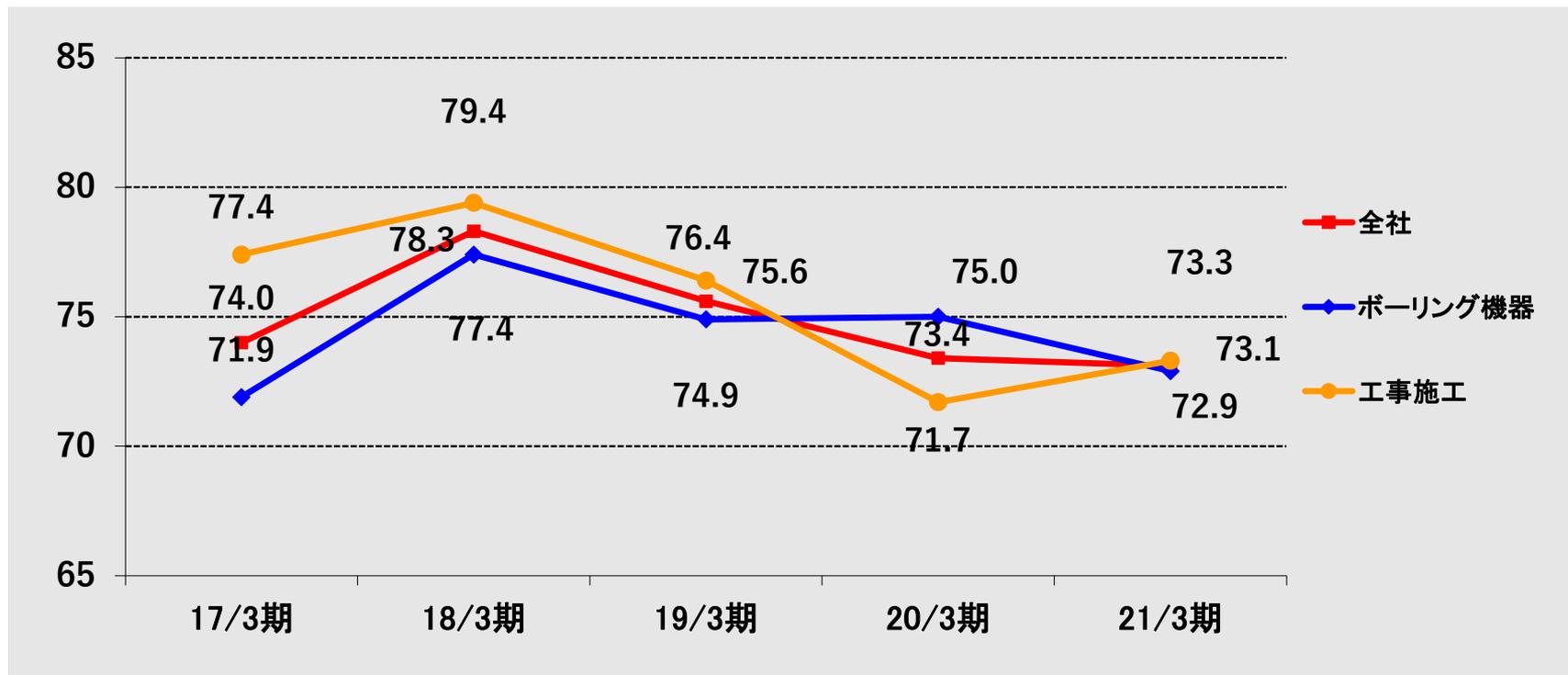
セグメント別原価率の推移

◆ボーリング機器の原価率は72.9%

➤売上高は2.1%増加し、原価率も前期比△2.1ポイントダウン

◆工事施工の原価率は73.3%

➤原価率は得意工種のBM工事の寄与はあったものの全体では完工高の減少と地下水活用と温泉工事の原価率の上昇が影響して1.6ポイント増加



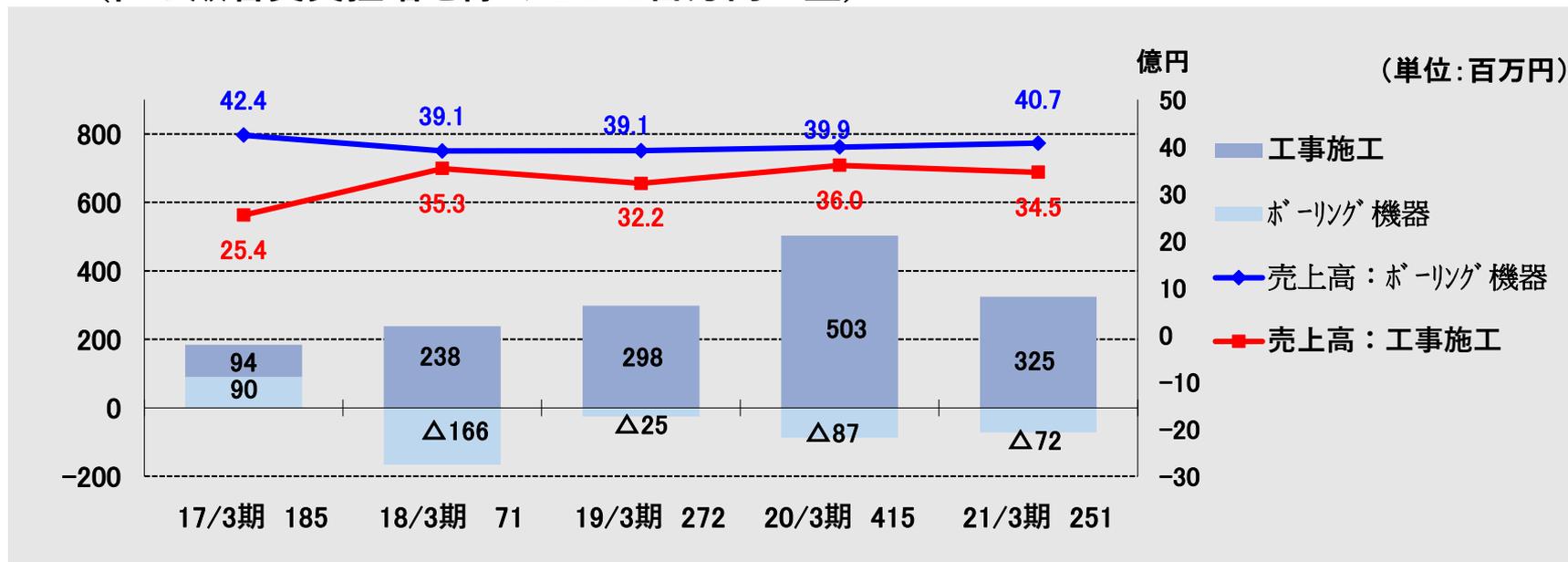
セグメント（営業）利益

◆ボーリング機器関連はセグメント損失△72百万円

- 売上高4,076百万円（2.1%増）となったが、期末に実施した特別棚卸評価損132百万円の計上と伊勢原新工場用地関連で販管費が増加し、当セグメントの固定費負担額が嵩んだため損失計上（但し特殊要因を除くと148百万円の利益計上）

◆工事施工関連はセグメント利益325百万円

- 売上高3,458百万円（△4.1%減）となり、完工高の減少と前記要因による販管費固定費負担増により前期比177百万円の利益減少（但し販管費負担増を除くと372百万円の益）



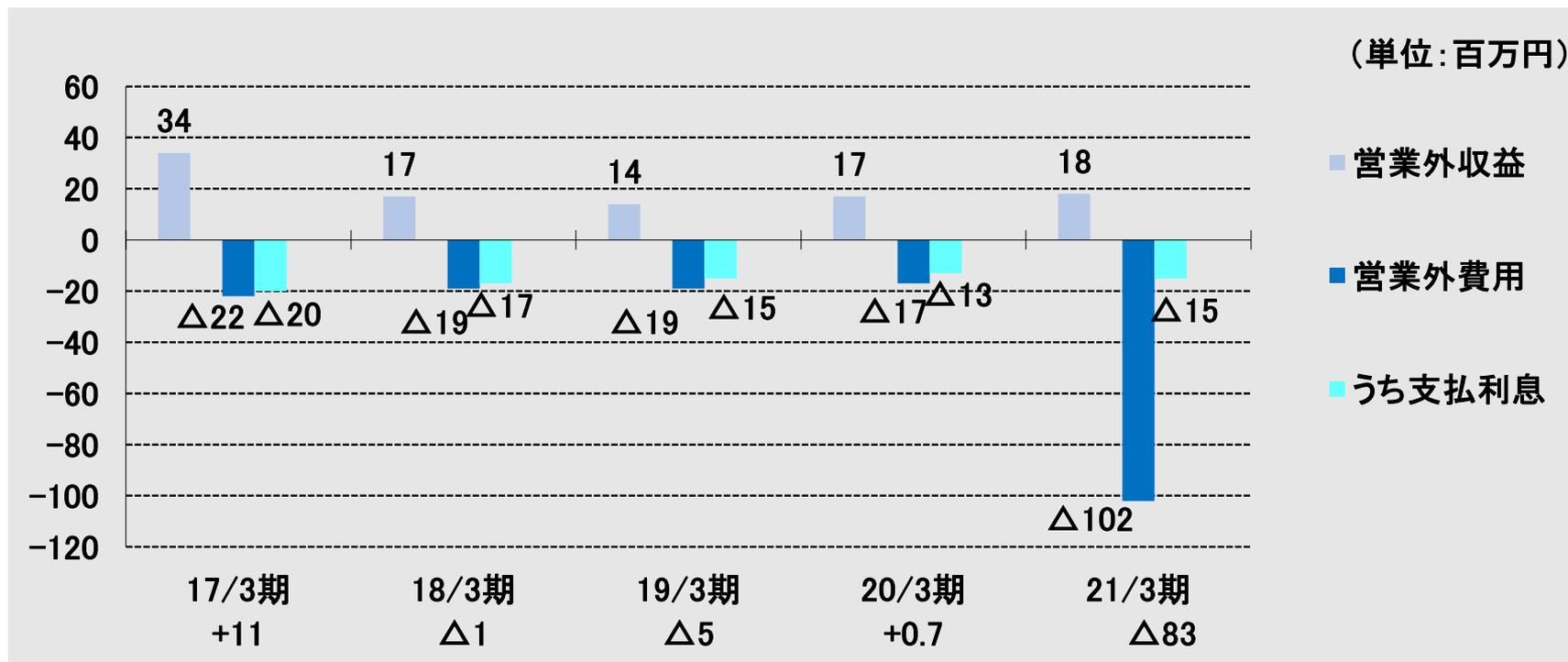
営業外損益・・・NETで83百万円の費用

◆営業外収益は前期比0.9百万円増の18百万円

➤ コロナ関連助成金収入4百万円、公園管理料2百万円、受取賃借料1百万円

◆営業外費用は前期比85百万円増の102百万円

➤ 有利子負債増加に伴う支払利息1百万円増と支払手数料84百万円が増加要因



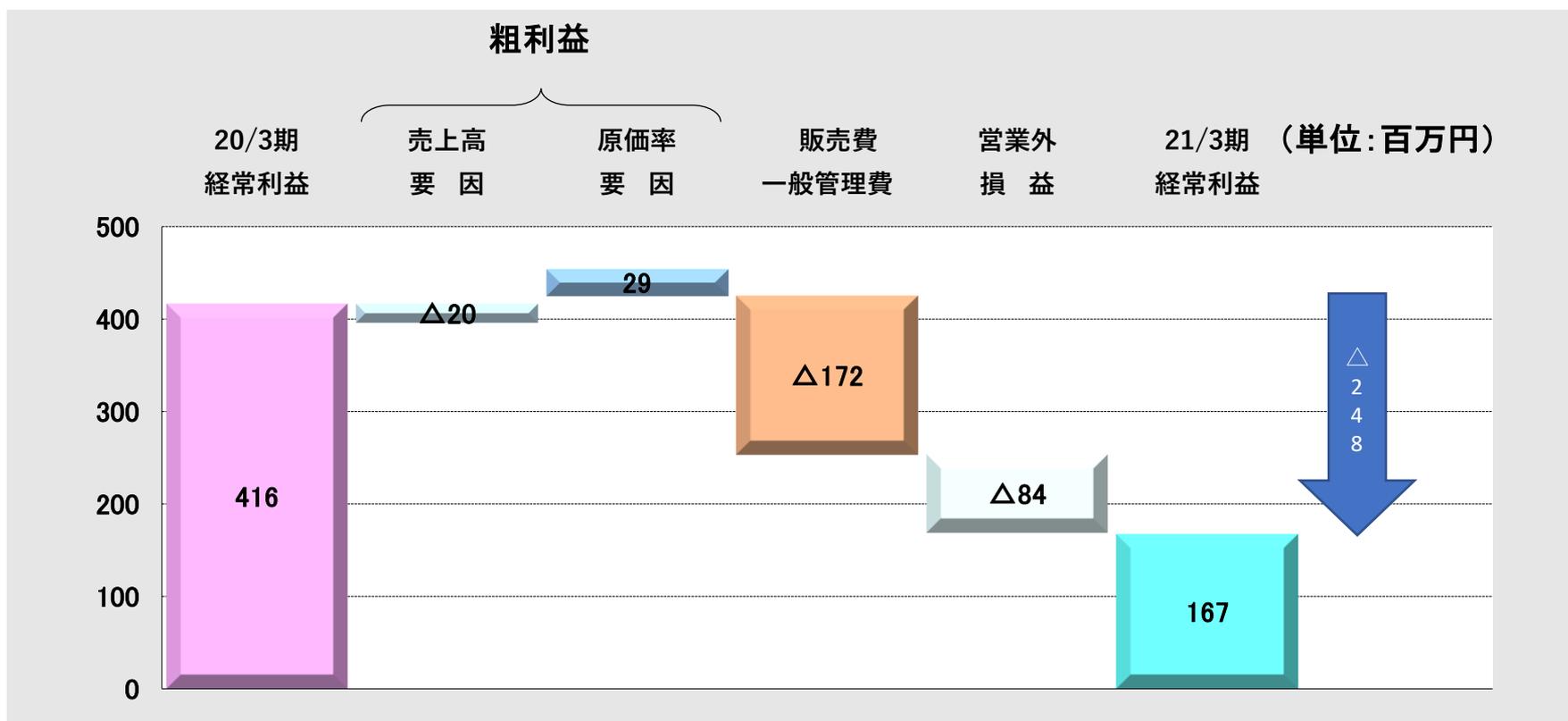
前期との経常利益差異要因

◆粗利益は9百万円増加

➤売上高減少（65百万円）により20百万円減益

原価率 Δ 0.3ポイントダウン（73.4% \Rightarrow 73.1%）により29百万円の増益

◆販売費及び一般管理費は172百万円増加、営業外損益NET84百万円の収入減により、
経常利益は167百万円で前期比248百万円の減益



連結貸借対照表の概要（資産）

◆総資産は9,365百万円で1,427百万円増

◆流動資産772百万円増

▶ たな卸資産516百万円、現金預金290百万円、
売上債権87百万円増、前渡金△129百万円減
(主に伊勢原土地手付金)

◆固定資産全体では654百万円増

～有形・無形固定資産は114百万円の減価償却費
実施と厚木工場土地・建物の売却等562百万円減
少したが、伊勢原土地購入等の取得1,482百万円
により791百万円増 固定資産合計は654百万円増加
投資その他の資産は「特定資産の買い替えによる
圧縮記帳」の実施により繰延税金資産が△148百
万円減少し、全体では△135百万円減

(単位：百万円)

	20年3月末	21年3月末	増 減
現金及び預金	1,125	1,415	290
売上債権	2,429	2,517	87
たな卸資産	2,055	2,572	516
その他流動資産	219	97	△122
流動資産計	5,829	6,602	772
有形固定資産	1,635	2,427	792
無形固定資産	63	61	△1
投資その他資産	409	273	△135
固定資産計	2,108	2,763	654
資産合計	7,938	9,365	1,427

連結貸借対照表の概要（負債・純資産）

◆負債は4,591百万円で546百万円増

- ▶前受金が△110百万円減少したが、買入債務（買掛金・工事未払金、電子記録債務、支払手形）が184百万円、未払法人税等が105百万円、有利子負債が467百万円増

◆21/3末自己資本は配当金71百万円の支出はあるが、当期純利益929百万円計上などにより873百万円増の4,747百万円（非支配株主持分を除く）

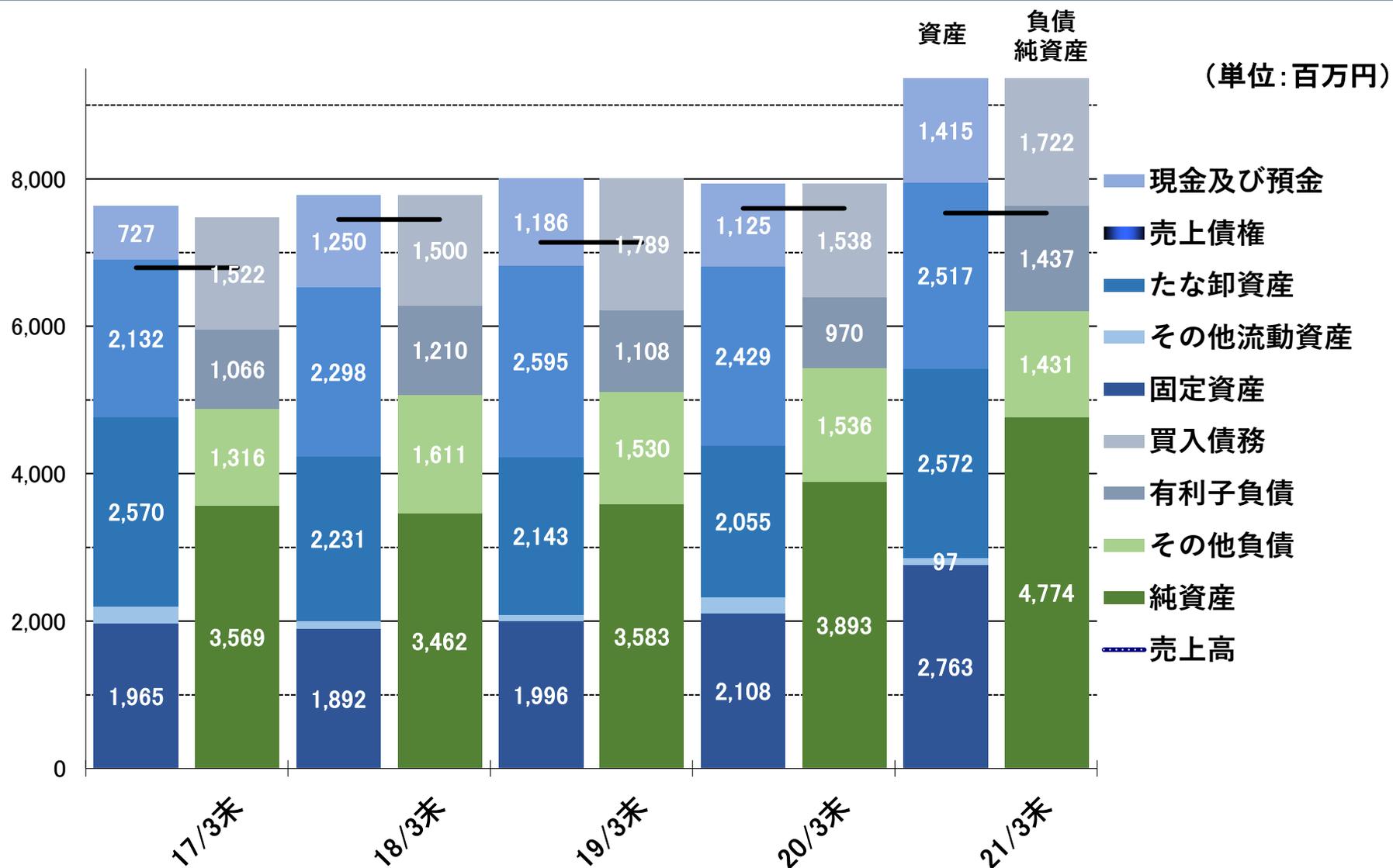
◆自己資本比率は50.7%(+1.9ポイント)

ROEは21.6%

（単位：百万円）

	20年3月末	21年3月末	増減
買入債務	1,538	1,722	184
短期借入金	690	690	0
長期借入金	280	747	467
その他	1,536	1,431	△105
負債合計	4,044	4,591	546
資本金	1,165	1,165	0
資本剰余金	0	0	0
利益剰余金他	2,560	3,728	1,168
その他包括利益他	148	△146	△294
非支配株主持分	19	26	6
純資産合計	3,893	4,774	880
負債・純資産合計	7,938	9,365	1,427

連結貸借対照表・・・総資産回転率は0.87回 D/Eレシオ（負債資本倍率）は0.01倍



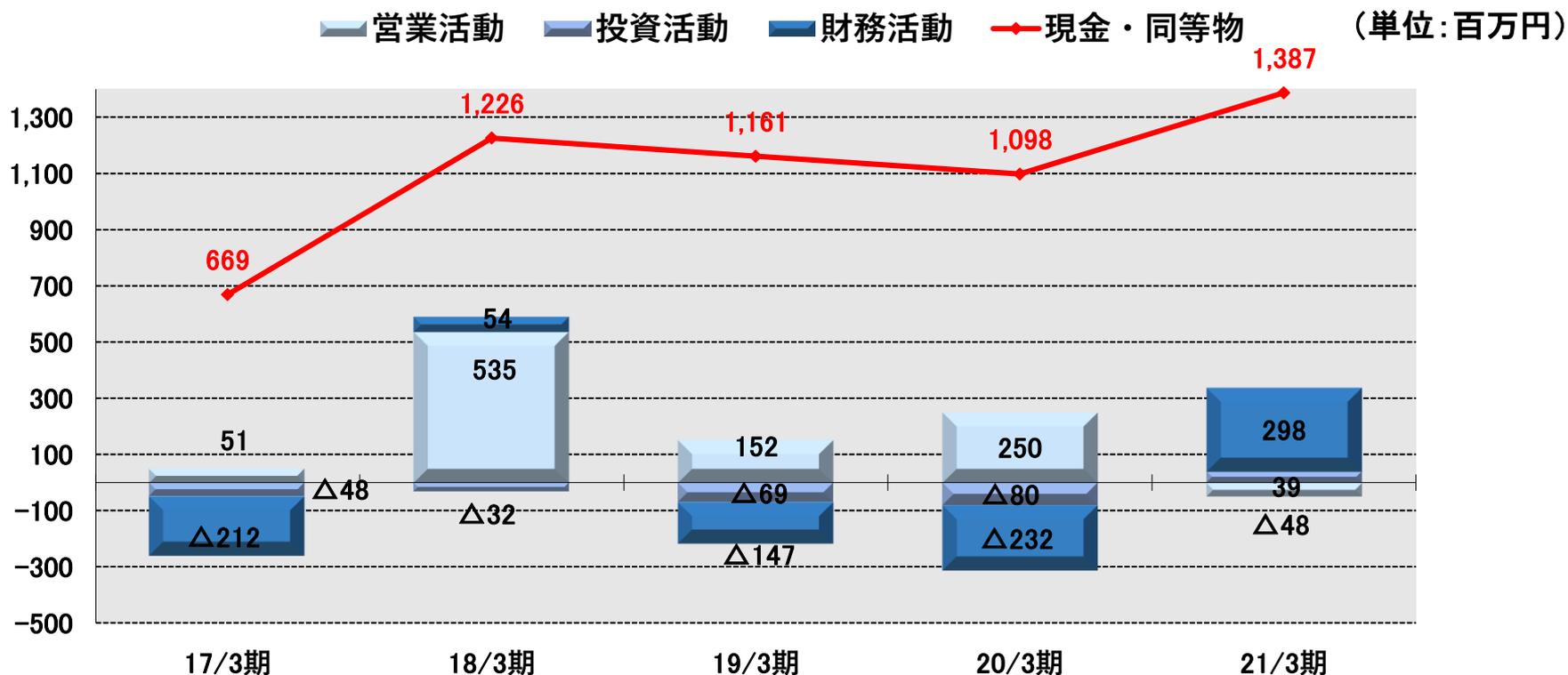
キャッシュ・フロー（CF）の状況

◆営業CFは△48百万円の資金支出…税前利益1,116百万円、固定資産売却益△963百万円、減価償却費の計上114百万円、支払手数料84百万円、仕入債務の増加188百万円及び未成工事受入金の増加63百万円、たな卸資産△538百万円、売上債権△115百万円

◆投資CFは39百万円の資金収入…有形固定資産売却1,370百万円、有形・無形固定資産取得△1,314百万円（フリーキャッシュ・フローは△9百万円）

◆財務CFは298百万円の資金収入…借入金950百万円の調達に対し△484百万円の返済、配当金△71百万円支払

◆現金及び現金同等物の期末残高は1,387百万円（前期末比289百万円増加）



次期2022年3月期連結業績見通しについて

ボーリング機器では、全国規模の防災・減災及び国土強靱化対策での地方復旧工事の影響による受注残高増加と新機種開発により、売上増加を見込む。また、海外市場においては、中国市場での「一帯一路」政策によるトンネル工事でのロータリー・パーカッションドリルや人命救済機のニーズを捕捉し、受注売上の確保を図る。

工事施工ではリニア中央新幹線関連のコントロールボーリング工事、大型BM工事(当社独自工法であるビッグマン工法)、温泉開発等の受注獲得に引き続き注力し、売上増加を図る。

なお、本年が2018中期経営計画の最終年であり、次期からは新たに策定した5か年の新中期経営計画「STEPUP鉦研ACTIONS2025」に基づいて持続的売上拡大と収益確保に努める。

	21/3期	22/3期(予想)	前期比増減	
売上高	7,534	8,200	665	8.8%
営業利益	251	400	148	59.1%
経常利益	167	360	192	14.5%
当期純利益	929	270	△659	△70.9%



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。